菅原キツネヤブ遺跡

―都市計画道路高尾・堀内線工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2000年

石川県野々市町教育委員会

例　　言

1．本書は石川県石川郡野々市町菅原町地内に存在する菅原キツネヤブ遺跡の報告書である。

2．本遺跡の調査は都市計画道路高尾・堀内線道路造成工事に伴い、野々市町都市計画課の依頼により野々市町教育委員会が実施したものである。

3．調査は平成９年６月３日～７月29日にかけて実施し、調査面積は約1,300㎡である。

4．発掘調査は徳野裕子、永野勝章（野々市町教育委員会）が担当し、本書執筆は徳野が担当した。

5．本書の執筆にあたっては町職員のほか石製品は岡本恭一氏（石川県埋蔵文化財センター）、陶磁器に関しては滝川重徳氏（同センター）より御教示、御指導を得た。記して感謝申し上げたい。

　なお、発掘調査では下記の人達の協力を得た。重ねて感謝申し上げたい。

《発掘調査》

岩田孝七、　小野幸子、　小幡頼三、　木津美和子、　木下　光、　瀬川朝子、　谷口初代、
田端　実、　紬美保子、　徳田外喜栄、　中川吉三、　中川美幸、　永田芳子、　西川千明、
西尾　稔、　橋本美智子、　羽土啓子、　早崎長三、　東　猛、　南外志雄、　山本美保子

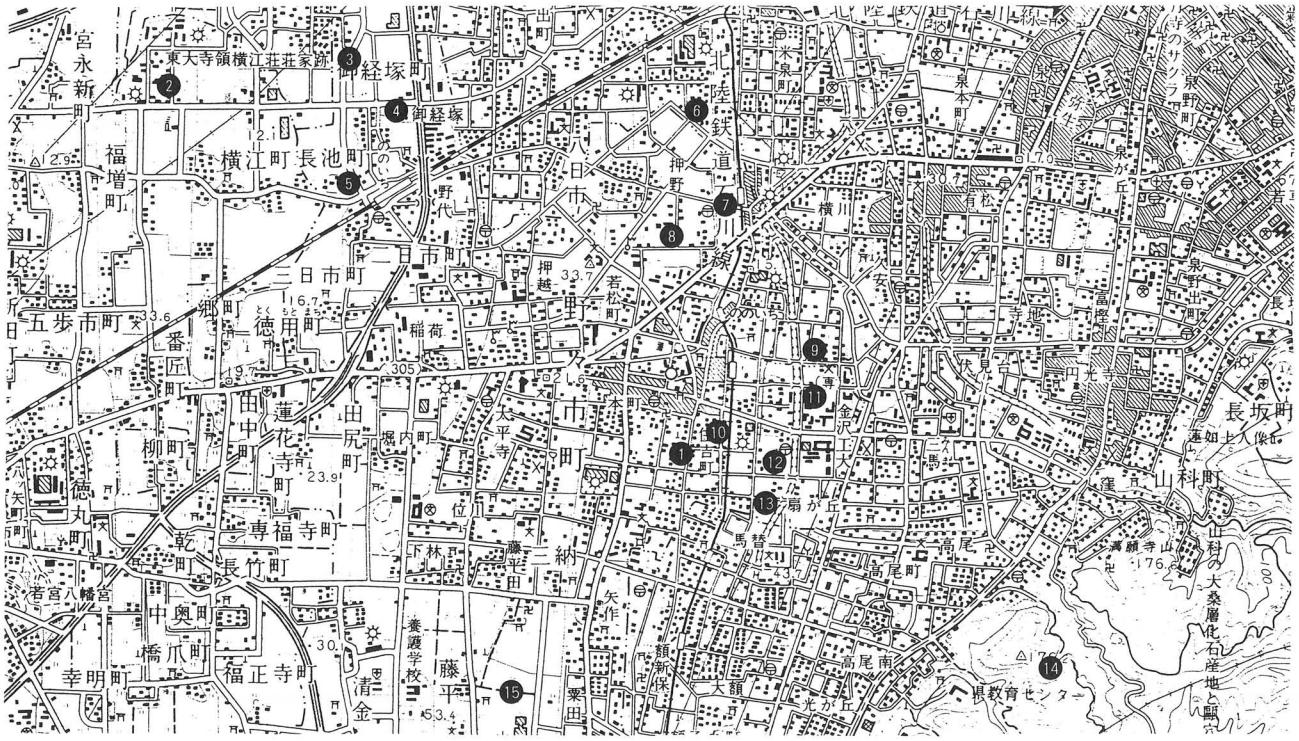
6．遺物整理作業は増山明美が行った。遺物写真及び編集は徳野が行った。

7．本書の挿図の指示は次の通りである。

(1)　方位はすべて磁北を表示してある。

(2)　挿図の縮尺は図内に表示した。

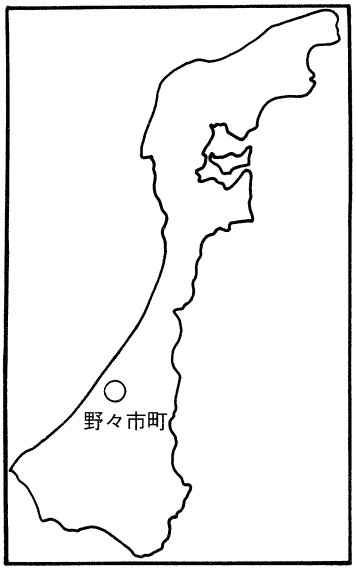
8．本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が保存管理している。



❶ 菅原キツネヤブ遺跡
❷ 横江庄遺跡
❸ 御経塚シンデン遺跡
❹ 御経塚遺跡
❺ 長池キタノハシ遺跡
❻ 押野大塚遺跡
❼ 押野ウマワタリ遺跡
❽ 押野タチナカ遺跡
❾ 高橋セボネ遺跡
❿ 冨樫館跡
⓫ 扇が丘ゴショ遺跡
⓬ 扇が丘ヤグラダ遺跡
⓭ 扇が丘ハワイゴク遺跡
⓮ 高尾城跡
⓯ 粟田遺跡

第１図　周辺の遺跡（１/50,000）

第１章　位置と環境



第２図　野々市町位置図

菅原キツネヤブ遺跡は石川県のほぼ中央に位置する野々市町菅原町地内に所在する。野々市町は金沢平野のほぼ中央、山海もなく起伏のない平坦地で、東西4.5km、南北6.7km、面積13.56km²という小さい町である。土質は肥沃で豊富な地下水に恵まれているため都市型農業に適しており、昭和40年代までは田園地帯が広がり集落が点在するのどかな風景であった。昭和50年以降は北陸地方の中核都市金沢市の隣町という条件もあり、急激な人口増加が進み、現在は４万３千人を有する日本海沿岸有数の雄町となった。本遺跡の所在する菅原町は野々市町の東に位置し、早くから町営団地や小学校が設置され、現在も宅地化が進行している地域である。

当遺跡から東約70ｍには中世における加賀国の治政の中心地となった守護所冨樫館跡が所在する。

第２章　調査に至る経緯と経過

菅原キツネヤブ遺跡は、都市計画道路高尾・堀内線道路工事に伴う緊急発掘調査である。平成８年に野々市町都市計画課より道路造成工事をするため埋蔵文化財の有無についての照会があった。野々市町教育委員会は野々市町都市計画課に分布調査が必要と回答し、平成８年９月６日に実施した。トレンチ11カ所を設定して調査を行った結果、３～５号トレンチでは遺構が確認され、そのうちの５号トレンチでは井戸が確認された。遺物では灯明皿や天目茶碗が出土し、最終的には約1,300m²が遺跡であると判断し、野々市町都市計画課に発掘調査必要の旨を通知した。これにより平成９年６月からの発掘調査の実施が決定し、６月３日より調査を開始し、７月29日に終了した。

第３章　遺構と遺物

第１節　遺構

井戸は不定形で、南北2.2ｍ、東西1.7ｍの素掘りである（ＳＥ１）。深さは２、３ｍ以上の深さを測るが、完掘はできなかった。最上層からは天目茶碗が出土している。土坑では石を敷き詰めたものが集中して８基確認されている。そのうちの１基（ＳＫ１）より石器が出土しているが遺構の時期を確定する資料とは言い難い。平成８年度に実施している冨樫館跡鬼ケ窪地区発掘調査で類似する遺構が確認されており、今後関連性を位置づける必要がある。調査区西側では現在の用水に平行するように南北に走る近世の溝が確認されている（ＳＤ１）。現用水が流れる以前までに使用されていた生活及び水田用水と思われる。18世紀～19世紀前半の陶磁器が多く出土している。

第２節　遺物

陶磁器

１は天目茶碗でＳＥ１の最上層より出土した。内外面に鉄釉が施されている。瀬戸美濃で古瀬戸の後期にあたると思われる。２は碗で18世紀前半のものと思われる。３は肥前系の皿で、18世紀中頃～後半のものであろう。４は染付の皿で、摩耗しているが蛇の目釉剥ぎが確認できる。18世紀前半のものである。５は皿で

第３図　遺構全体図（１/400）

第４図　調査区図（１/25,000）

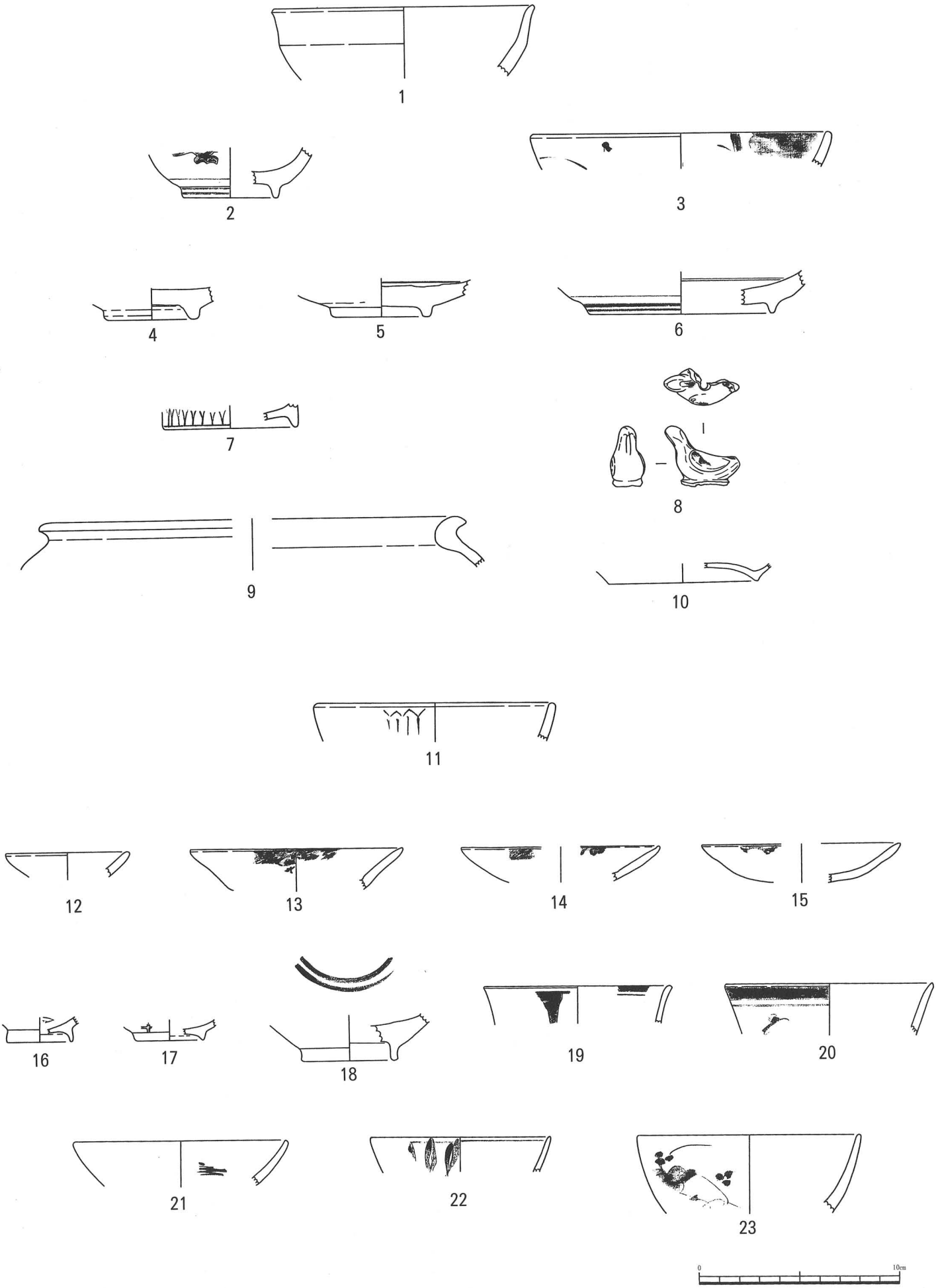
蛇の目釉剥ぎが施されている。18世紀中頃～後半のものである。６は波佐見系の皿で18世紀中頃～後半のものである。７は瓶で18世紀代のものと思われる。８は肥前系で、鳥を型取ったものである。９は練り鉢で産地は不明であるが近世後半のものと思われる。10は土瓶で外面は素焼きで内面は白泥がかかっている。18世紀後半以降であろうか。11は青磁の碗で線刻蓮弁文が描かれている。15世紀末～16世紀のものであろう。12～15は土師皿である。13・14は灯明皿で小片のため時期設定は難しい。何れも灯芯油痕が付いている。15も灯明皿で18世紀前半のものと思われる。16は酒杯で内面には扇が描かれている。18世紀末頃のものと思われる。17は小盃で近代のものか。18は肥前系の筒碗で18世紀後半のものになるであろう。19・20は口縁が外反する小型の端反碗で19世紀前半のものである。小片のため定かではないが再興九谷か瀬戸美濃系のものになると思われる。21は碗で18世紀前半のものと思われる。22は19世紀代の再興九谷の碗である。23は肥前系の碗で外面には草花文が描かれている。18世紀の前半～中頃のものと思われる。24は波佐見系の皿で18世紀後半のものであろう。25は碗底部で18世紀前半～中頃のものと思われる。26は初期伊万里の皿で、やや高めの高台をもっている。17世紀前半のものである。27は蛇の目釉剥ぎの皿で18世紀前半までであろうか。28は陶器の碗で産地は不明であるが18世紀以降になる。29は陶器の皿である。30は山口県須佐唐津のすり鉢であるが年代は不明である。31は同じく須佐唐津のすり鉢で18世紀後半以降と思われる。

石製品

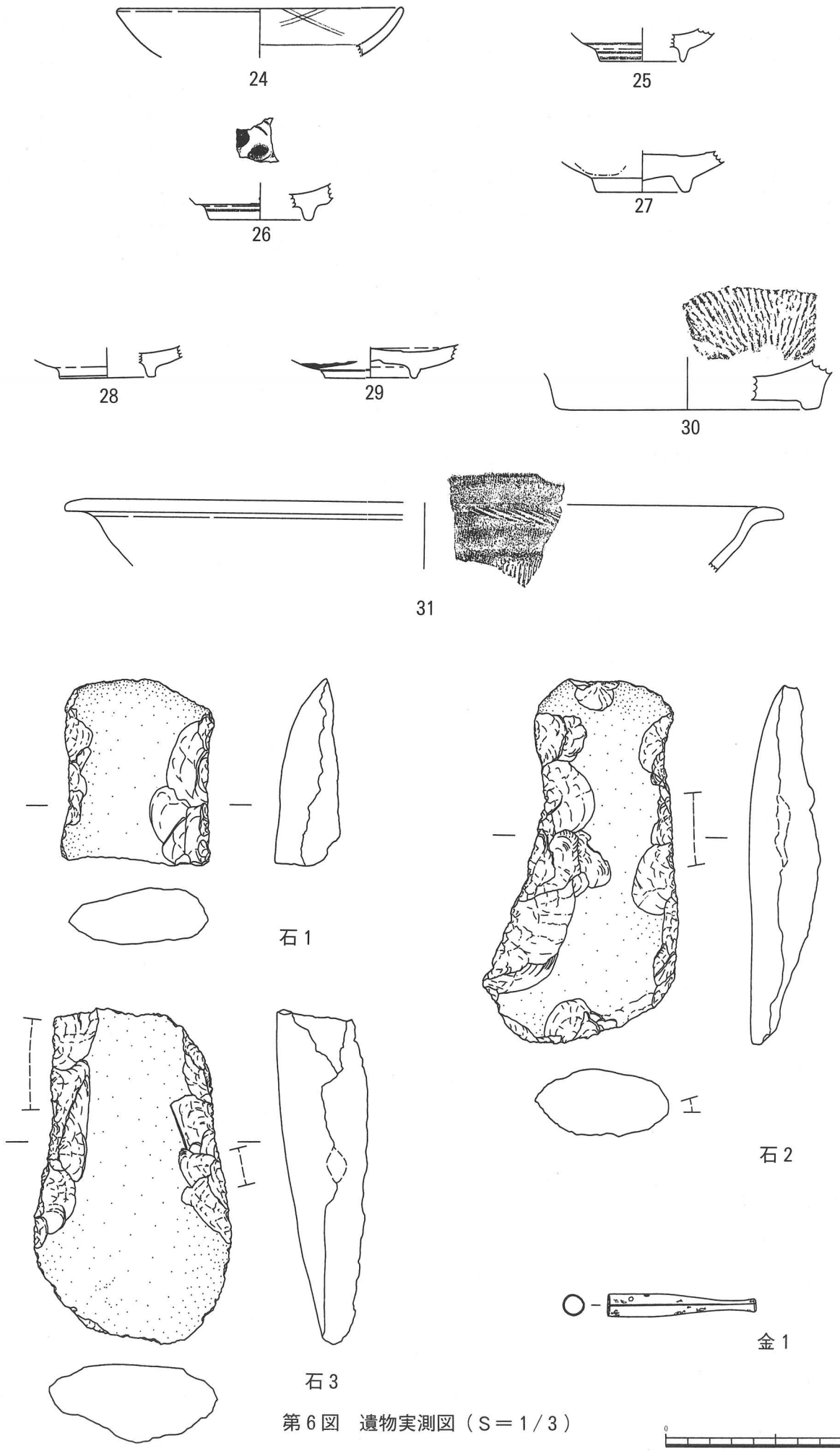
１～３はすべて打製石斧である。１は半分に折れ、基部だけが残っている。石質はデイサイト質の火山礫凝灰岩である。ＳＫ１より出土した。２は包含層からの出土で完形品である。石質はヒン岩である。３も包含層からの出土で基部が欠損している。石質はデイサイト質の火山礫凝灰岩である。

金属製品

１は煙管の吸い口である。１枚の銅から作られている。江戸時代後半のものと思われる。



第５図　遺物実測図（Ｓ＝１／３）



第6図　遺物実測図（S＝1／3）

土器観察表

	出土地点	器種	法量(cm)	釉薬	絵付	文様等	胎土色	備考
1	SE1	天目茶碗	口径 13.0	鉄釉			灰色	
2	SD1	碗	底径 4.8	透明釉	染付		白色	磁器
3	SD1	皿	口径 15.1	透明釉	染付		灰白色	磁器
4	SD1	皿	底径 4.5		染付		白色	磁器　蛇の目釉剥ぎ
5	SD1	皿	底径 5.0	白釉			灰白色	磁器　蛇の目釉剥ぎ
6	SD1	皿	底径 9.3	透明釉	染付		灰白色	磁器
7	SD1	瓶	底径 6.8	透明釉	染付		白色	磁器
8	SD1	不明	高:3幅:3.7厚:1.7	透明釉	染付		白色	磁器　重量7.3g
9	SD1	練り鉢	口径 21.3				淡灰色	磁器
10	SD1	土瓶	底径 7.4	内:白泥			淡橙褐色	陶器
11	包含層	碗	口径 12.2				灰白色	青磁
12	包含層	皿	口径 6.3				淡黄橙褐色	土器
13	包含層	灯明皿	口径 10.6				淡黄褐色	土器　灯芯油痕
14	包含層	灯明皿	口径 8.3				淡黄褐色	土器　灯芯油痕
15	包含層	灯明皿	口径 10.0				淡黄褐色	土器　灯芯油痕
16	包含層	酒杯	口径 3.3	透明釉		扇	白色	磁器
17	包含層	小盃	底径 3.4	透明釉			白色	磁器
18	包含層	碗	底径 4.8	透明釉	染付		白色	磁器　高台に砂目残る
19	包含層	小型碗	口径 9.1	透明釉	染付		灰白色	磁器
20	包含層	小型碗	口径 10.4	透明	染付		灰白色	磁器
21	包含層	碗	口径 10.8	透明釉			白色	磁器　外面一部に釉がかかっていない
22	包含層	碗	口径 9.0	透明釉	染付		白色	磁器
23	包含層	碗	口径 11.2	透明釉	染付	草花	灰白色	磁器
24	包含層	皿	口径 13.1	透明釉	染付		灰白色	磁器
25	包含層	碗	底径 3.9	透明	染付		灰白色	磁器　高台に砂目残る
26	包含層	皿	底径 4.8	透明釉	染付		灰白色	磁器
27	包含層	皿	底径 4.4				白色	磁器　蛇の目釉剥ぎ
28	包含層	碗	底径 4.5				黄褐色	陶器
29	包含層	皿	底径 4.2	透明釉			橙褐色	陶器　蛇の目釉剥ぎ
30	包含層	すり鉢	底径 12.1				淡黄褐色	陶器
31	包含層	すり鉢		無釉			茶褐色	陶器

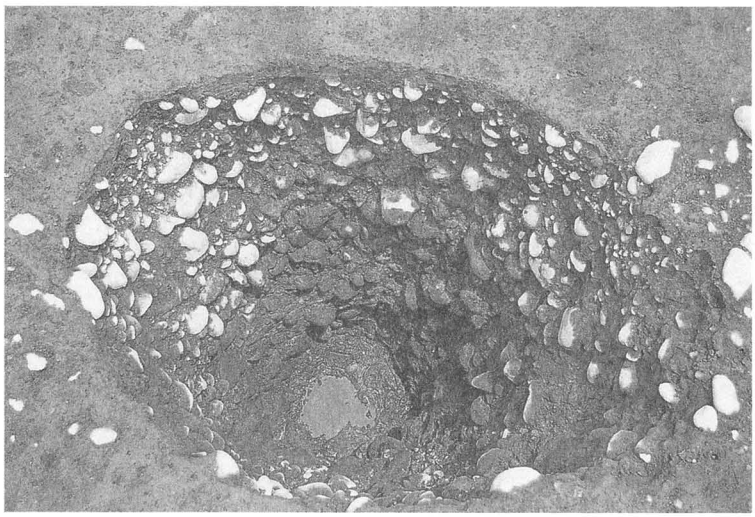
石製品観察表

番号	出土地点	種別	形状	法量(cm)			重量(g)	備考
				長	幅	厚		
1	SK1	打製石斧	長方形	8.6	6.3	2.5	200g	
2	包含層	打製石斧	長方形	16.7	8.7	3.0	470g	
3	包含層	打製石斧	長方形	14.7	9.0	4.2	665g	

金属製品観察表

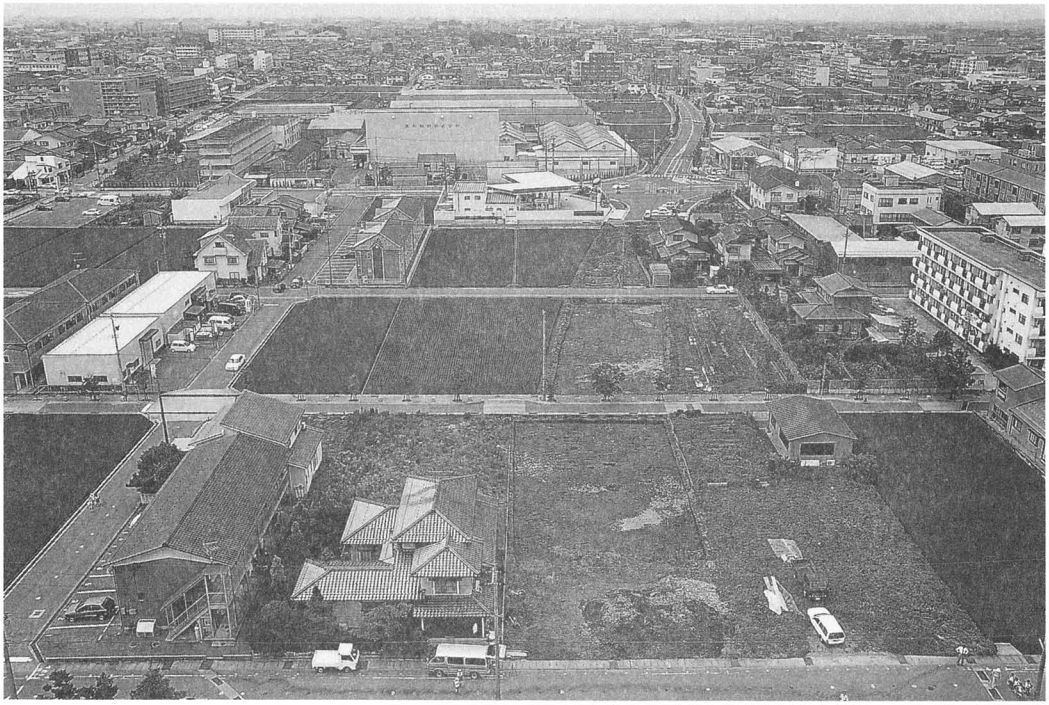
番号	出土地点	種別	材質	法量(cm)			重量(g)	備考
				長	幅	厚		
1	包含層	吸口	銅	6.8	0.6	1.0	8.5g	

ＳＫ群

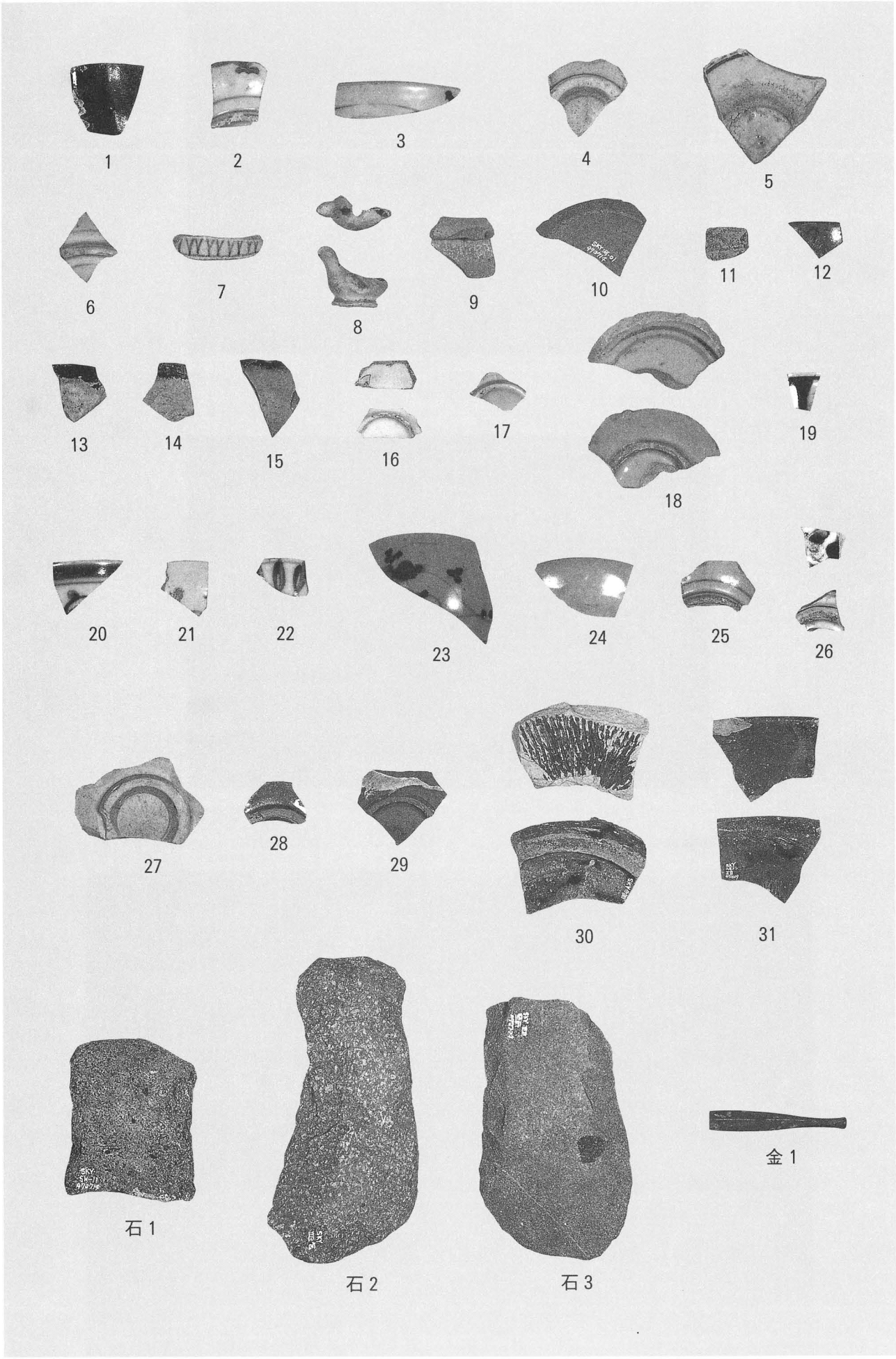


ＳＥ１

調査区全景（東から）



図版2


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
石1
石2
石3
金1

報告書抄録

ふりがな	すがはらきつねやぶいせき
書名	菅原キツネヤブ遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
編著者名	徳野裕子
編集機関	野々市町教育委員会
所在地	〒921-8815　都道府県　石川県石川郡野々市町本町５丁目４-１　☎ 076-246-2344
発行年月日	西暦　2000年３月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すがはら 菅原キツネヤブ遺跡	いしかわけんいしかわぐんののいちまち 石川県石川郡野々市町 すがはらまち 菅原町	17344		36度31分26秒	136度37分10秒	1997.6.3 ～ 1997.7.29	1,300m²	都市計画道路工事に係る緊急発掘調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菅原キツネヤブ	集落跡	中世	井戸　１基	天目茶碗	
		近世	溝　１条	煙管 陶磁器	

菅原キツネヤブ遺跡

発　　行　　2000年３月
編集発行　　野々市町教育委員会
〒921-8815
石川県石川郡野々市町本町５丁目４－１
☎ 076-246-2344
印　　刷　　㈲アサヒヤ印刷